



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部



発行人：阿波谷, 大原, 板東, 川本, 澤田
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 「第22回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部大会」(第2報)

美波町国民健康保険美波病院 (徳島) 本田 壮一

この秋の学術集会の大会長を務める。正式名称は、「第22回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会/第29回四国地域医学研究会 合同学術集会」。だが、余りにも長く本稿では「22回PC四国」と省略する。前号のブロック支部ニュースレター(四国支部) No.37(2022年3月発行)に、「徳島県地域包括ケアシステム学会、そして秋の四国ブロック支部会」として、第一報を報告した。今号では、その続き(第二報)として詳しく紹介する。すでに5月末に、PC学会HPの四国ブロック支部サイト(学術集会・セミナー⇒支部情報⇒支部・研究会連絡先)¹⁾に、掲載しており参考と思う。

記

日時	2022年11月19日(土)、20日(日)
場所	徳島大学 藤井節郎記念ホール および オンライン (〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18番地の15、電話：088-633-9420)
会費	無料

下記に、第1日目のプログラムを下記に示す。

引き続き、第2日目のプログラムを次のページに示す。

【第1日目】11月19日(土)

時間	演目
13:00~13:30	(四国地域医学研究会 総会)
13:30	受付、ログイン開始
14:00~14:10	開会式
14:10~15:10	一般演題(その1)
15:15~16:15	大会長講演 美波町国民健康保険美波病院 本田 壮一 「徳島県南部でのプライマリ・ケアの実践」
16:20~18:00	シンポジウム 「頻発する災害とプライマリ・ケア～地震・津波、COVID-19、そして～」
18:10~18:30	四国ブロック支部総会
19:30~	Zoomを用いた交流会

【第2日目】11月20日(日)

時間	演目
6:20~7:00	(徳島中央公園：ラジオ体操・ファンラン)
8:30~10:30	ポートフォリオ発表会
10:30~11:30	一般演題 (その2)
11:30~12:30	教育講演 島根大学医学部附属病院総合診療医センター 白石 吉彦 「徳島から隠岐へ、そして総合診療医育成の道へ」
12:40~12:45	閉会式
13:30~	(旧徳島城表御殿庭園 散策)

テーマは、「四国で学び、日本の未来に寄り添うプライマリ・ケア」とした。私は、故郷の美波町（徳島県海部郡）の病院に勤務し、もう18年目に入る。遷延する人手不足に苦しむ中山間地でのプライマリ・ケアでは、有機的な「連携と教育」が重要と感じている。都市部より10~15年高齢化の進んだ四国の地域医療は、未来の都市部のプライマリ・ケアに参考になることが多いと考えられる。また、美波町の隣の阿南市で発見された日本紅斑熱（馬原文彦先生）は、新しい疾患概念で日本全体での問題となっている。糖尿病死亡率全国一が続いた徳島県では、糖尿病の研究者が徳島大学に集まり、世界にとどく研究成果が出てきている。さらに、2014年のノーベル物理学賞に輝いた青色LED（中村修二教授ら）は、光科学として研究が進展している。

徳島以外の四国においても、香川の希少糖や高知の海洋深層水、愛媛の微量タンパク分析など、様々な科学分野でのユニークな発見があり、この応用とともに、これらを活用したプライマリ・ケアを学び、ひいては、日本の未来のプライマリ・ケアの進歩に寄与したいと考える。

次に、プログラムの一部を紹介する。

(1) 大会長講演：「徳島県南部でのプライマリ・ケアの実践」

美波町国民健康保険美波病院 本田 壮一（座長：徳島大学 板東 浩）

私は1958年美波町の生まれで、中学校までは町内で、高校は阿南市、大学は徳島大学医学部へ進学した。高校野球がブームで、勧誘され準硬式野球部に入部。内野手の板東先生は、2年先輩になる。当時は水分の摂取が制限されており、2年の夏合宿で熱中症となり退部した。3年からは、外国語研究会（Foreign Language Society）に入り、主に英会話を鍛錬した。春や夏のキャンプで、四国内の大学間や西日本の医歯薬学部の学生と交流を持った。白川光雄先生（宍喰診療所）は、5学年後輩となる。

卒業後は、総合的な診療を展開していた内科学教室である旧第一内科（血液・内分泌代謝内科。安倍正博教授は、FLSの一年後輩）に入局。大学病院の研修の他、旧高松市民病院（現高松市立みんなの病院）や徳島県内の病院・診療所に勤務した。板東先生（第二研究室（内分泌学）。私は、研究留学の後に所属）や、白川先生（第三研究室（血液凝固学）。私も、入局後に配属していた）は、旧第一内科の同門になる。基礎研究と臨床を行う教室で、1988~91年、東京・築地の国立がんセンター（現国立がん研究センター）で、リサーチレジデントとして学んだ。その後、内科教室や臨床分子栄養学（大塚）講座に通いながら、阿南市の診療所に勤務した。2005年より郷里の旧由岐病院（50床）に勤務。2016年からは、将来に起こりうる津波災害を考え高台に移転した美波病院に勤務している（**図1：美波病院を背に**）。



地域の病院に勤務後も学術的な活動と思い、日本プライマリ・ケア連合学会に入会。2005年から発刊されている、四国支部論文集に連続で寄稿してきた（表1、19編）。

表1: 日本プライマリ・ケア学会四国支部論文集の論文一覧

篇	No.	年	タイトル
	1	2005年12月	(なし)
	2	2008年6月	(なし)
1	3	2010年6月	医学生 実習 を受け入れて～地域でのプライマリ・ケアを伝える～
2	4	2011年3月	地域で輝く医師であるために～研修医・医学生の 教育 ～
3	5	2012年3月	東南海・南海 地震 に備える～医療連携、プライマリ・ケアの質を高める～
4			溺水・溺死 で当院に救急搬送された13症例の検討
5	6	2013年6月	急性冠症候群 の医療連携～「海部プロジェクト」自験症例より～
6			プライマリ・ケアにおける 禁煙 活動の推進
7	7	2014年6月	地域における がん 診療のプライマリ・ケア
8	8	2015年6月	10年間の 救急 医療をふりかえる～徳島県南部の小病院での変遷～
9			精神科 との連携が奏効した2症例～全人的医療として～
10	9	2016年7月	由岐病院79年の軌跡
11			アブシン危機一髪
12	10	2017年4月	南海トラフ巨 地震・津波 に備えて(第2報)
13			病院での“ エンドオブライフケア ”2016
14			地域小病院でのプライマリ・ケア～徳島県南部での挑戦は続く～
15	11	2018年5月	在宅医療で 栄養 サポートを考える
16	12	2019年5月	災害 医療への総合診療の意義～ポスト高松大会のあゆみ～
17	13	2020年6月	2018年の学会発表をふりかえる～Act locally, think globallyの実践～
18	14	2021年5月	COVID-19 流行下での発熱のプライマリ・ケア
19			介護施設の 高齢入所者 に対する診療の問題点

編集や発刊に尽力されている板東先生らに感謝している。この大会長講演では、美波病院や海部郡、徳島県南部のプライマリ・ケアについてのあゆみや課題を紹介したいと思う。四国、ひいては日本の未来のプライマリ・ケアに役立つ内容があれば幸いと考える。

(2) シンポジウム:「頻発する災害とプライマリ・ケア～地震・津波、COVID-19、そして～」

災害において、日常生活を維持するプライマリ・ケアは重要である。四国において起こりうる、あるいは発災した災害の対応を解説いただく。座長は、藤原真治(木屋平診療所)、山口治隆(徳島大学)の両先生。4名の徳島支部の会員に発表を依頼し、快諾を得た(図2・表2)。

図2: 後列左より、三村・上山・林;

前列右、本田; 右下、中園の諸先生



2019年10月

表2：シンポジウムの演者（敬称略）

	演者	タイトル
1	上山 裕二	南海トラフ巨大地震に備えた地域における救急シミュレーションコースの開催
2	林 秀樹	南海トラフ災害に対する AMDA などの取り組み
3	三村 誠二	COVID-19 パンデミックの3年間をふりかえって
4	中園 雅彦	ランサムウェアの脅威に対応した半年の軌跡

早々にいただいた抄録などの一部を示す。

（2-1）南海トラフ巨大地震に備えた地域における救急シミュレーションコースの開催

上山 裕二（医療法人倚山会田岡病院 救急科、徳島市医師会 救急・防災対策委員会委員長）

南海トラフ巨大地震など大規模災害時において、組織だった救援活動が開始されるまでの発災直後は、地元医師会員らによる医療活動が求められる。当地における大規模災害に備えたさまざまな取り組みを紹介する。Primary-care Trauma Life Support (PTLS)は、1996年より僻地勤務医らが開発・展開している外傷初療シミュレーションコースで、外傷初期診療コース JATECTM の元になったものである…（以下省略）。

（2-2）南海トラフ災害に対する AMDA などの取り組み

林 秀樹（医療法人芳越会理事長、AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議発足委員長）

（前略）2014年に「南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議」²⁾を立ち上げ、高知県と徳島県を主体に支援の準備に取りかかっている。各県に5チームを編成し全10チームを事前に決められた拠点とマッチングし、各チームが1週間で交代し約1ヶ月間のスケジュールで第4陣までの計画を組み立てている。広域災害時、医療支援だけでは実際的でなく「アクセス」「通信」「備蓄」など10のカテゴリーに分けトラック移動で支援するコンボイ体制など、現在までの取り組みを解説する。

注：AMDAは、Association of Medical Doctors of Asia（アジア医師連絡協議会）の略。

（2-3）COVID-19 パンデミックの3年間をふりかえって

三村 誠二（徳島県立中央病院、COVID-19 入院調整本部）

世界中を感染症が恐怖に陥れている³⁾。人の社会が変わり、経済や教育が打撃をうけ、医療業界は崩壊の危機に瀕し、我々は感染に怯える日々である。しかし、これから我々はこのウイルスに立ち向かい、そして共存していかななくてはならぬ。そのためには、我々全員がそれぞれの立場で行動を起こしていかなければならない。医療、行政の立場では、今回の感染症を災害と位置づけ、県庁に災害時に設置されるような調整本部が設置された。調整本部は行政、災害医療コーディネータ、統括DMAT、感染症チーム、医師会などのメンバーで構成されている。ここで、患者さんの入院や宿泊療養に関する準備、物資の調達・配布、クラスター発生時の対応準備、マニュアルの作成などを行っている…（省略）。

注：徳島県内における「新型コロナウイルス」陽性者数（累計）は23,370名となった（6月15日）。

（2-4）ランサムウェアの脅威に対応した半年の軌跡

中園 雅彦（つるぎ町立半田病院 院長）

我々は2021年10月31日にランサムウェアによるサイバー攻撃を受けて病院機能がストップしてしまう事態を経験した。今後、各病院がサイバー攻撃対策参考の一助になることを願い報告を行う。2021年10月31日午前0時30分頃に電源が入っている全てのプリンターから英文の犯行声明が、用紙がなくなるまで自動印刷されると同時に、電子カルテが使用不能となった。その後システム担当者により「LockBit 2.0」によるサイバー攻撃が判明した。県警のサイバー犯罪へ報告し、災害対策本部を立ち上げ、各部門の状況把握と対応策の検討を指示し、報道機関に記者会見を行った…（省略）。

(3) 教育講演：徳島から隠岐へ、そして総合診療医育成の道へ

白石 吉彦（島根大学医学部附属病院総合診療医センター長） / （座長：徳島大学 谷 憲治）

1992年に自治医大を卒業し、徳島で医師としての道を歩み始めた。吉田修先生とTICO（徳島で国際協力を考える会）の活動をし、日野谷診療所で濱田邦美先生に地域包括ケアの実践、総合診療医としてのやりがいを学んだ。その後医師7年目の1998年に、隠岐へわたった。本来1年間の赴任の予定であったが、隠岐の生活があまりにも楽しく、そして何より小規模離島ゆえにすべての疾患のファーストタッチができること、手つかずの保健福祉との連携にやりがいを見出した。隠岐赴任4年目となる2001年には34歳で院長となり、魚釣り、ヨット、素潜り、トライアスロンを満喫しながら、医療者確保、広報、経営などマネジメントに取り組んだ。一方でプレーヤーとして総合診療医の小技集や整形外科系書籍の出版、講演、セミナーなどを行った。隠岐での医療の魅力を発信し続けたため当初4名で切り盛りしていた隠岐島前病院は、プログラムもないのに後期研修医が集まる病院となり、2022年には8名の医師が働く病院となった（中略）。

島根大学附属病院総合診療医センター（通称 しまね総合診療センター）のwebサイトでは地域医療に必要な症候学、家庭医療学等の数多くの良質なビデオコンテンツを無料公開している。また島根県で働く総合診療医はどのように志を持ち、現在の地で総合診療を行っているのかについても若い医師に向けて紹介している。我が国の総合診療医学を牽引する島根の研究業績もわかりやすく報告し、実際に総合診療医が地域医療をどのように楽しんでいるかについても紹介している。2022年度からは大学の単位を発行する形で高度総合診療力修得コースが開講されている。



図3：白石先生と（横浜、6月11日）

注：DOCTOR'S MAGAZINE No. 266(2022年3月号)で紹介された⁴⁾。四国からの全国に活動を展開されているプライマリ・ケア医の一人としてご講演をいただく。

(4) その他

初日の総会終了後に、河南真吾先生（吉野川医療センター）を中心に、Zoomを用いた交流会を行う。また、晴天であれば、2日目の朝に、城山周回ファンラン。学術集会終了後の午後に、徳島城跡を案内したい。現地参加者へのプレゼントと考えている。

文末に、「22回PC四国」準備委員の諸先生を示す（敬称略）。

役職	氏名（所属）
大会長	本田 壮一（美波町国民健康保険美波病院）
副大会長	藤原 真治（木屋平診療所）、河南 真吾（吉野川医療センター）
事務局長	大倉 佳宏（徳島大学病院）
顧問	板東 浩（徳島大学/小松島病院、徳島支部長） 谷 憲治（徳島大学、第10回四国支部大会長：2010年） 鎌村 好孝（徳島県 保健福祉部） 白川 光雄（宍喰診療所、第14回支部大会長：2014年） 山口 治隆（徳島大学、第18回支部大会長：2018年）

数年来、COVID-19 パンデミックの問題が継続してきている。そのため、容易に関係者が集まることは難しい状況にある。しかし、いろいろと工夫しながら、メーリングリストや Zoom ミーティングを活用し、良い大会になるようにと、議論を続けてきた(図4、第2回準備委員会)。



図4：左上から時計回り、板東・本田・藤原・河南・山口・大倉の諸先生(5月20日)

このたびの四国ブロック大会において、2022年10月上旬には、一般演題の受付を開始予定とすることを考えている。是非とも、発表や参加をお願い申し上げたい。

なお、2022年6月に、横浜において、日本プライマリ・ケア連合学会が開催された⁵⁾。その中で、長年にわたる従来の徳島支部の活動についてポスターで示し、発表を行った(図5)。



図5：ポスター発表(横浜、6月12日)

【参考 URL】

- 1) 地方会の情報
⇒エラー! ハイパーリンクの参照に誤りがあります。
- 2) AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議⇒エラー! ハイパーリンクの参照に誤りがあります。
- 3) 三村誠二：『新型コロナウイルス感染症がそこにある時代』．とくしま医師バンク通信ドクターカモンメール VoL. 146 (2020年7月号)
⇒エラー! ハイパーリンクの参照に誤りがあります。
- 4) DOCTOR' S MAGAZINE 2022年3月号 No. 266にて 白石吉彦センター長が表紙に登場 ロングインタビューが掲載されました (NEURAL GP Network)
⇒エラー! ハイパーリンクの参照に誤りがあります。
- 5) 本田壮一、河南真吾、藤原真治、大倉佳宏 他：四国で学び、四国の未来に寄り添うプライマリ・ケア(徳島県支部のあゆみ)．第13回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 横浜市, 2022年6月⇒エラー! ハイパーリンクの参照に誤りがあります。

★2 医学生の地域医療訪問

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

令和4年5月20日に医学部附属病院地域医療支援センター主催で、第21回地域病院オンライン見学ワークショップ(バスツアー代替イベント)が開催されました。

地域医療支援センターでは、医学生を引率して地域病院を訪問しております。見学や意見交換を行うことで将来地域医療を担う医師を目指す医学生に、早い段階から地域医療の実情に触れてもらうことが目的です。

今回は新型コロナウイルスの感染状況が終息せず直接病院を訪問することが困難であるためオンラインで西予市立野村病院と結び、医学科1~3年生16人が参加して実施されました。

地域医療学講座西予市サテライトセンター(西予市立野村病院)から、西予市立野村病院の紹介動画を上映とともに野村町のロケーションや人口、住民の年齢層などの説明に加え、病院の概要や役割、取組内容についての説明がありました。その後、実際に本学会会員から訪問診療の様子を撮影した動画を上映、道中や診察の様子、患者やご家族の様子などを詳細に説明していただきました。



続いて、総合診療専門医になられた総合診療科の菊池明日香先生から多職種連携による患者のサポートについてロールプレイを交えての講義を行っていただきました。学生に役柄とシナリオを与え、家族役を演じてもらった「家族会議」や医療に関わるさまざまな職種を演じてもらった「多職種連携カンファレンス」を体験してもらいました。各グループで話し合った内容を発表し、菊池先生に補足説明をしていただきました。

参加した医学生は、「患者の自宅を訪問することで、より多くの情報が得られる」ことを学び、菊池先生から「医療に関わる様々な職種が得ている情報を連携し、共有することの大切さ」を学ぶことができ、大いに刺激を受けておりました。

最後に地域医療支援センター田口先生より、医学生の今後のキャリア形成のためのサポートに関して一言いただきました。

今回のオンライン病院見学に関するアンケートでは、参加学生からは「実際の訪問診療の様子を映像で見ることが出来てとても有意義だった。」

「患者と家族の意見と医療チームの意見では全く違って、また、多職種の協力がとても重要だと感じた。」「医師だけでなく他の視点をもった人と協力する方が、患者さんについて知ることが出来る感じた。」と新たな発見をするとともに、地域医療のあり方に対して深く考える良い機会となったようです。



さらに、「夏休みに野村病院を見学しに行きたい」「8月に行われる実習に参加したい」という声や、「今回のようなワークショップは学年全体ですべきだと思いました。」という意見もあり、非常に好評でした。

なお、参加学生全員から病院見学バスツアーを開催した場合には「参加したい」との回答がありました。
エラー! ハイパーリンクの参照に誤りがあります。にて報告。

★3 2022年度第1回ポートフォリオ発表会&総合診療セミナーを開催します

高知家総合診療専門研修プログラム
事務局 阿波谷敏英 (高知大学)

高知家総合診療専門研修プログラムでは、高知県立病院群総合医・家庭医養成後期研修プログラムと合同で、7月23日(土)オンラインでポートフォリオ発表会、総合診療セミナーを開催します。

前半のポートフォリオ発表会では、両プログラムの専攻医によるポートフォリオ発表、指導医を交えたディスカッションを行います。両プログラムの関係者は元より、他のプログラムの指導医、専攻医、総合診療・家庭医療に興味を持っている学生・研修医など自由にご参加いただいて結構です。ともに学びましょう。

後半の総合診療セミナーでは、川崎市立救急災害医療センター長 田中 拓 先生に、「～救急専門医から総合診療専門医、家庭医療専門医に伝えておきたいこと～(仮題)」というテーマで講演いただきます。田中先生は、自治医科大学を卒業し、高知県内でへき地医療に従事したのち、救急の分野でご活躍をされています。総合診療と救急の両方を知り尽くした先生ですので、総合診療専門医を目指す専攻医が救急研修で、どのようなコンピテンシーを獲得すべきかのヒントがあるものと思います。学生、研修医、専攻医、指導医など多くの方のご参加をお待ちしています。

高知家総合診療専門研修プログラム
高知県立病院群総合医・家庭医養成後期研修プログラム
2022年度 第1回
ポートフォリオ発表会 &
総合診療セミナー

日時 7月23日(土)13時30分～16時
場所 WebEXによるオンライン開催

第1部 ポートフォリオ発表会
第2部 総合診療セミナー「救急領域」
～救急専門医から総合診療専門医、家庭医療専門医に伝えておきたいこと～(仮題)
講師:川崎市立多摩病院
救急災害医療センター長
田中 拓 先生

対 象:家庭医療・総合診療研修プログラムの専攻医と指導医
総合診療に興味のある医療従事者・医療系学生のみなさん

参加費:無料
参加登録はこちら⇒
<https://forms.gle/8amk6rnX8v5tsj2r9>
登録いただいた方にWebEXのログインリンクをお送りします

※本セミナーの開催は「(一社)高知医療再生機構」の補助事業を活用しています

お問い合わせ
高知県立病院群総合医・家庭医養成後期研修プログラム運営・研修管理委員会事務局
(高知県公営企業局県立病院課内 担当/井添)
TEL:088-821-4634/FAX:088-821-4509/Email:takeshi_izoe@ken4.pref.kochi.lg.jp



【日時】 2022年7月23日(土) 13:30～16:00

【単位】 日本プライマリ・ケア連合学会

専門医・認定医生涯学習 2.5単位

Off-JT [領域:臨床] 2.5単位

【参加申込】右のQRコードから、7月20日までにお問い合わせください。お申込みいただいた方にオンライン会議のURLをお送りします。

【問合せ】高知県公営企業局県立病院課(担当/井添) takeshi_izoe@ken4.pref.kochi.lg.jp

